

思いや意図をもって表現を工夫する器楽の授業モデル例

本モデル例は、今回新設された〔共通事項〕を生かし、イメージと音楽の要素とを結び付け、「〇〇な感じを出すために、△△を～したい。」など、より具体的に思いや意図をもって表現を工夫する学習のモデル例である。

ここでは、これまでも実践されてきている器楽合奏の学習について、楽譜をなぞるに留まることがないように、音楽の諸要素に着目させ、イメージと結び付けながら主体的に器楽合奏（ここで扱う教材は歌詞付）の表現を工夫していくことを目指した学習の展開となっている。

- 1 題材名 様子や気持ちが伝わるように演奏しよう 〔第6学年〕
教材 「風を切って」 土肥 武 作詞／橋本 祥路 作曲

2 題材の目標

- 様子や気持ちをイメージして、演奏を工夫することに関心を持ち、進んで学習に取り組むことができる。 【音楽への関心・意欲・態度】
- 重なり合う旋律の響きや歌詞からイメージを広げ、音楽の要素と結び付けて、演奏を工夫することができる。 【音楽的な感受や表現の工夫】
- 重なり合う音やリズムに気を付けて演奏することができる。 【表現の技能】
- お互いの表現の工夫のよさや違いを感じ取ったり、味わったりしながら聴くことができる。 【鑑賞の能力】

3 題材について

本題材は、歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫し、思いや意図をもって演奏することをねらいとしている。

児童はこれまでの学習で、曲名や旋律の流れから曲のイメージを広げ、そのイメージを音楽の要素と関連付けて演奏の仕方を工夫することができるようになってきつつある。ここでは、まず、曲のできた背景について知らせることで、曲へのイメージを広げ、演奏の工夫への意欲をもたせることができると考える。さらに、歌詞の内容や楽曲の構成、及び音の重なりなどのその他の音楽の諸要素にも着目させ、曲のイメージと音楽の要素とを結び付けることで、どの要素をどのように工夫していくか、具体的に自分なりの思いや意図をもって表現の仕方を工夫していくことができると考える。

4 指導計画（全8時間）

時	教材	主な学習活動	指導上の留意点
1	「風を切っ て」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲を聴き，感じたことや気付いたことを発表し合う。 ○ 曲のできた背景を知り，イメージを広げる。（歌詞についても話し合う） ○ 楽器や各パートに着目して聴いたり，パートごとの試奏を聴いたりして，演奏したいパートを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲を聴き，感じたことと気付いたことを分けて発表するように助言し，区別して板書するようにする。 ・ 冒険家植村直己の写真やエピソードなどの資料を提示し，曲へのイメージを広げることができるようにする。 ・ 楽器や各パートの演奏に着目して聴かせるようにする。
2		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各パートの役割を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副次的旋律や低音パートなど，それぞれのパートが全体の中でどのような役割を果たしているか，意見を交流させながら考えることができるようにする。
3		<ul style="list-style-type: none"> ○ 音程やリズムに気を付けてパート別練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同パートの友達と教え合いながら正しいリズムで演奏できるようにする。
4		<ul style="list-style-type: none"> ○ パート別練習を仕上げ，全員合奏をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他のパートと重なる響きを感じ取りながら演奏するよう助言する。
5		<ul style="list-style-type: none"> ○ パートごとに，イメージと音楽の要素とを結び付けながら演奏の工夫をする。（本時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲のイメージに合う演奏をするために，工夫する音楽の諸要素を全体で確認する。 ・ ワークシートを活用し，グループでどの要素をどのように工夫するか話し合いながら追求活動ができるようにする。
6		<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表会を行い，お互いに意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互に演奏を聴き合い，自分たちが困っているところやさらに工夫するとよい点などの意見を交流させる場を設定する。
7		<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表会を受けて，パートごとに演奏を練り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で得たアドバイスを基に，どのように工夫していくかグループで確認してから活動に入るようにする。
8		<ul style="list-style-type: none"> ○ 最終発表会を行い，全員合奏をして学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各パートの工夫を生かして全体で合奏し，パート間のバランスなどについて意見を交流し合いながら全体をまとめ上げていくようにする。

※文章中の太字部分は，イメージと音楽の要素とを結び付けて表現に生かす活動で，特に大事にしたい部分

5 本 時 (5 / 8)

(1) 目 標

自分たちが表現したい曲のイメージ（様子や気持ち）と音楽の要素とを結び付けながら、演奏を工夫することができる。 【音楽的な感受や表現の工夫】

(2) 指導に当たって

曲のイメージに合う演奏をするためには、音楽のどの要素をどのように工夫すればよいかを考えられることが重要である。したがって、以前学習したイメージを伝える演奏の工夫について想起させたり、活動の途中で他のパートからヒントをもらったり、活動が停滞しているパートにはお互いにアドバイスし合ったりしながら、自分たちの演奏の工夫ができる場の設定を行うようにする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	○教師の具体的な働きかけ ※評価規準
課題把握	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてについて確かめる。</p> <p>イメージした様子や気持ち伝わるように演奏の工夫をしよう。</p>	10	<p>○ 本時の学習に見通しをもって取り組むことができるようにするために、学習の流れをあらかじめ板書するとともに、前時に設定した情景のイメージを写真やイラストで掲示しておく。</p> <p>○ 以前学習したイメージを伝える演奏をするために、音楽の要素を工夫することを想起させる。</p>
課題追求	<p>2 演奏の工夫の仕方について話し合う。</p> <p>・音色 ・リズム ・速度 ・強弱 ・旋律 ・音の重なり ・和音のひびき ・拍の流れやフレーズ</p>	30	<p>○ 全体で共通理解しておくべき音楽の要素について確認しておく。 (各パートの音量バランスなど)</p> <p>○ 自分たちの音楽を注意深く聴きながら活動できるようにするために、パート同士が近くなり過ぎないように練習場所を振り分ける。</p> <p>○ ワークシートを活用し、イメージに合う音楽の要素について、演奏ごとに、どのような表現の仕方がよいか話し合いながら工夫していけるようにする。</p> <p>○ 活動が順調に進んでいるパートの演奏を聴いたり、行き詰まっているグループの意見を取り上げて、お互いにアドバイスできるような場の設定をする。</p> <p>※ イメージに合うような音楽の要素を選び、演奏の工夫をしている。 【活動の様子を観察】</p>
表現の工夫	<p>3 自分たちの表現イメージと音楽の要素とをどのように結び付けばよいか考えながら、演奏の工夫をする。</p> <p>(1) 各パートの楽曲の中での役割と曲のイメージに合う音楽の諸要素について話し合い、演奏の工夫をしている。</p> <p>・「孤独な旅 白の世界」の部分は寂しい感じなのでだんだん音を小さくしよう。</p> <p>・「風はほえ荒れ狂う」の部分はだんだん音を大きくしよう。</p> <p>・「氷河に消えた」の部分は、勇ましい感じなので、音を強くはっきり出そう。</p> <p>(2) 友達や教師のアドバイスを基に、さらに演奏の工夫をしていく。</p> <p>・イの部分は繰り返になっているので、歌詞を手がかりにして、演奏に変化をつけよう。</p> <p>・イからウに変わるところは③パートのリズムがゆったりした感じに変化している。そりを引っ張っている犬が疲れた感じがするので、全体的に速度を落としてみよう。</p>		
まとめ	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>・イメージに合う演奏の工夫の仕方が、友達のアドバイスでわかってきた。次の時間もう少し〇〇を工夫していきたい。</p>	5	<p>○ 他のグループの音楽を聴いて参考になったことや、自分たちの音楽でもっと工夫したいことなどを、学習カードに記入したり、発表し合ったりすることで、次時の中間発表会に向けて意欲を持たせる。</p>

イメージを写真やイラストで掲示しておくことによって、常に自分たちの表現したいイメージをもって追究活動ができるようにしている。

イメージに合った表現をするために、工夫する音楽の諸要素を確認して追究活動に臨ませるようにしている。

イメージに合う音楽の要素をどのように工夫していくのか、自分たちで確かめながら進めてけるようにワークシートを活用している。

さらに表現を深め広げたり、行き詰まった活動のヒントを得たりすることができるよう、相互に聴き合い、意見を交流させる場を設定している。

振り返りは、具体的な言葉で表現することができるようにしている。